

彙報

受贈圖書雜誌目錄(昭和44・445・3)

郷土作家研究 第七号

青森県郷土作家研究会

国文学研究 第四〇・四一集

梅光女学院大学国語国文学会

京都府立大学学術報告人文 第二一号

早稲田大学国文学会

近代文学研究 第一七号

国文白百合 第一号

跡見学園短期大学紀要 第六集

東洋大学近代文学研究会

白百合女子大学国語国文学会

愛媛国文研究 第一八・一九号

高知女子大國文 第四・五号

国文鶴見 第四号 鶴見女子大学日本文学会

愛媛国文と教育 第一号

甲南国文 第一六・一七号

国立国語研究所年報 19・20

愛媛国文学会

甲南女子大学国文学会

日本文学会

愛媛大学教育学部国語国文学会

語学文学 第七号

親和国文 第七号 駒沢大学国文学会

大阪樟蔭女子大学論集 第七号

北海道教育大学語学文学会

親和女子大学国語国文学会

大谷女子大学紀要 第三号

国語学研究 第九号

親和女子大学国語国文学会

大妻女子大学文学部紀要 第一号

東北大学文学部国語学研究会

人文科学科紀要 第四八輯

帯広大谷短期大学紀要(人文科学) 第六号

国語研究 第二〇号

人文科学科紀要 第四八輯

学習院大学国語国文学会誌 第一二号

山形大学教育学部国語国文学研究会

人文科学科紀要 第四八輯

昭和女子大学光葉会

愛知教育大学国語国文学会

大阪府立大学文学部

大阪教育大学国語国文学研究会

国語と教育 第四号

滋賀大学国文学会

学大國文 第一三号

大阪教育大学国語教育学会

滋賀大國文 第六・七号

大阪教育大学国語国文学研究会

国語の研究 第四号 大分大学国語国文学会

上代文学研究会々報 第二〇・二一号

香椎潟 第一五号 福岡女子大学国文学会

国文 第三〇・三一号

東洋大学国語国文学会

金沢大学法文学部論集(文学篇) 第一六号

お茶の水女子大学国語国文学会

国文学論集 第三号 上智大学国文学会

岐阜大学国語国文学 第四・五・六号

国文学研究 第四・五号

女子大國文 第五三・五四・五五・五六号

ノートルダム清心女子大学国文学科紀要 第三号

国学院大学栃木短期大学国文学会

京都女子大学国文学会

梅花女子大学文学部紀要 第五号

山口大学文学会誌 第二〇卷一・二号

女子大文学 第二〇・二一号

福島大学教育学部論集 第二〇号の二

横浜国立大学人文紀要第二類 第一五輯

成蹊国文 第二号

藤女子大学国文学雑誌 第五・六・七号

立正大学文学部論叢 第三三・三六号

成蹊大学日本文学科研究室

文学部紀要 第四卷一・二号

和洋国文研究 第七号

成城文芸 第五三・五四・五五号

文学部紀要 第四卷一・二号

和洋女子大学国文学会

成城大学文芸学部研究室

文学論稿 第一六号

平家物語と源光行の蒙求和歌(増田欣)

説林 第一八号 愛知県立大学国文学会

九州大学教養部国文研究室

富山大学教育学部紀要抜刷

鶴見女子大学紀要 第七号

文学論稿 第一六号

富山大学教育学部紀要抜刷

帝塚山学院大学研究論集 第四集

文学論稿 第四一・四二・四三号

平家物語南都本に関する研究(山下宏明)

帝塚山短期大学日本文学研究 第一号

文学論稿 第四一・四二・四三号

名古屋大学教養部紀要抜刷

東京支那学会報 第一五号 東大中哲研究室

文芸と思想 第三三号 福岡女子大学文学部

慰草(三浦三夫編) 愛知県立看護短期大学

同志社国文学 第四号 同志社大学国文学会

文林 第三号

村上忠順集

都大論究 第八号

松蔭女子学院大学国文学研究会

電子計算機による国語研究II

東京都立大学国語国文学会

北海道教育大学紀要人文科学篇 第一九卷二

国立国語研究所

日本歌謡研究 第九号

宮城教育大学国語国文 第一号

文学論—その対象と方法?—(志村和久)

日本文学研究 第七号 高知日本文学研究会

明治大学教養論集 第四七・五二号

千葉大学教育学部研究紀要抜刷

日本文学研究 第八号

明治大学人文科学研究所紀要 第七冊

契沖とうつほ物語(中島尚)

大東文化大学日本文学会

明治大学人文科学研究所年報 第九号

千葉大学教育学部研究紀要抜刷

日本文芸学 第四号

野洲国文学 第四号

和泉式部小伝

関西学院大学日本文学研究室

野洲国文学 第四号

八幡大菩薩愚童記(愛媛の文学資料叢書5)

高知大学国語国文学会則

- 一、本会は高知大学国語国文学会と称する。
- 二、本会は高知大学文学部国語国文学科教官、学生、出身者及び高知大学教育学部国語科関係教官をもって会員とする。その他本学関係者で入会を希望する者をもって会友とする。

- 三、本会は会員相互の連絡と学術研究の進展とを計る事をもって目的とする。

- 四、本会に左の役員を置く。

- 会長 一名 国語学国文学科主任教授
- 又は之に準ずる教官をもってする。
- 顧問 若干名 評議員 若干名
- 委員 若干名

- 五、本会の目的を達するため、左の事業を行なう。

- (イ) 総会懇親会の開催
  - (ロ) 研究会講演会の開催
  - (ハ) 機関雑誌の編集
  - (ニ) 研究書、紀要等の編集発行
  - (ホ) 会員名簿の作成
  - (ヘ) その他必要な事業
- 六、本会の経費は会費、寄附金、その他の収入をもって之にあてる。

- 七、本会の事務は高知大学文学部国語国文学研究室に於て之を行なう。
- 備考、会費年額四〇〇円(学生三〇〇円)
- 学年始めに納入のこと。

後記

昨年、本会々々長石津純道先生がめでたく還暦のお年を迎えられ、八月一七日には先生ご夫妻をお招きして、寿司柳本店でにぎやかな祝賀会が催された。有志があつまって、この祝賀会の相談をするとともに、選歴記念事業の相談をした第一回目が、七月中旬のことであつたと思う。はじめ論文集を作ろうということになつたが、やがて機関誌を出す方がいっそう有意義であろうということになり、これが十二月の総会にかけられて正式にきま

た。発行の準備にとりかかったのは総会よりずっと前であつたから、かなりてまどつてしまつたことになるが、ようやく創刊才一号をお目にかけるはこびになつた。

本号の表紙の題字は、特に松岡雲峯先生に揮毫していただいたもの、さすがに立派なものである。会員諸氏とともに、先生にあつくお礼を申し上げたい。なお、表紙に当然あるべき「石津教授選歴記念号」の文字がないことに不審をいだかれる方が多いことと思うが、これは先生が「ごえんりよなさるので、おことばに従うことにした次第」ご諒解をお願いしたい。経費をまかなうために寄附金をお願いしたところ、石津先生のお祝いにとて、多数の方々がご協力下さつた。雑誌の誕生し得たのは、まったくこれらの方々のおかげであつて、感謝に堪えないところである。衷心よりお礼を申し上げます。

本誌は年一回発行ということにし、才二号は来年夏に出す予定である。会員諸氏にはすでに投稿して下さいようお願いする。枚数は三〇枚程度以内。もちろん短くてもよい。

内容もあまりきゅうくつに考えず、たとえば遺跡探訪記やその写真、あるいは郷里や勤務先で採集した伝説や方言といったものもけっこうであらうと考える。

会費は本年度から年四〇〇円(学生三〇〇円)となつたが、本誌維持のために、これまでもましてよろしく願ひしたい。

最後に各位の御健康を祈つて筆をおく。

(K・O)

昭和四十五年七月三十日 印刷  
昭和四十五年七月三十日 発行

高知 大 国 文 創刊号

発行者 高知大学国語国文学会

高知市朝倉一〇〇〇

高知大学文学部

国語国文学研究室

発行所 高知大学国語国文学会

振替(徳島)一五〇二四番

印刷者 徳 弘 宙 一